

2021 年度

# 臨床研修実施要項

小田原市立病院

## 目次

臨床研修の到達目標	1
研修プログラム	4
研修医の処遇に関する事項	7
各診療科別カリキュラム	10 ~

			1年目	2年目
必修	内科	循環器内科	各科8週ずつ合計24週	2年目にも選択可能
		呼吸器内科		
		消化器内科		
	外科	外科	外科8週、脳外4週合計12週	2年目にも選択可能
		脳神経外科		
	救急科		8週	4週
	小児科		1年目にも選択可能	4週
	産婦人科		1年目にも選択可能	4週
	精神科		1年目にも選択可能	4週
地域医療			4週	
自由選択	糖尿病内分泌内科		各科合計8週まで選択可能	各科合計32週まで選択可能
	腎臓内科			
	整形外科			
	形成外科			
	呼吸器外科			
	心臓血管外科			
	皮膚科			
	泌尿器科			
	眼科			
	耳鼻咽喉科			
	リハビリテーション科			
	放射線科			
	麻酔科			
	病理診断科			

## 臨床研修の到達目標

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

### A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

#### 1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

#### 2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

#### 3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

#### 4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

### B. 資質・能力

#### 1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不法行為の防止に努める。

#### 2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配

慮した臨床判断を行う。

- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

### 3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

### 4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

### 5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの構成員と情報を共有し、連携を図る。

### 6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める。

### 7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。

- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

## 8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

## 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌やゲノム医療を含む。)を把握する。

## C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

### 1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

### 2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域医療に配慮した退院調整ができる。

### 3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

### 4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

## 研修プログラム

### 1 特色

県西地域の基幹病院としての利点を活用し、地域に密着した実践的なプライマリ・ケアを習得し、医師として必要な人間関係、生活態度、基本的診療能力を身につけるとともに初期臨床研修期間において許される範囲での手技を各科にて積極的に行わせることにより、実力を伴った医師の育成を目標とする。

### 2 プログラム責任者

寺崎 雅子

### 3 1年次研修

#### (1) 内科研修(必修)

原則として消化器内科、呼吸器内科、循環器内科を8週ずつ計24週研修します。

#### (2) 外科研修(必修)

原則として一般・消化器外科を8週、脳神経外科を4週ずつ計12週研修します。

#### (3) 救急科(必修)

救急科を8週研修します。

#### (4) 選択科

以下の選択科から2科選択し計8週研修します。

循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、外科、脳神経外科、救急科、小児科、産婦人科、精神科、糖尿病内分泌内科、腎臓内科、整形外科、形成外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科

### 4 2年次研修

#### (1) 救急科(必修)

救急科を4週研修します。

※1年次で選択した場合でも4週研修が必要です。

#### (2) 地域医療研修(必修)

臨床研修協力施設で4週研修を行います。

(3)産婦人科(必修)

産婦人科を4週研修します。

※1年次で選択した場合でも4週研修が必要です。

(4)小児科(必修)

小児科を4週研修します。

※1年次で選択した場合でも4週研修が必要です。

(5)精神科(必修)

曾我病院で3週、小田原市立病院で1週研修をします。

※1年次で選択した場合でも4週研修が必要です。

(6)一般外来(必修)

小児科で2週、地域医療研修で2週ずつ計4週並行研修を行います。

(7)選択科

以下の選択科から8科選択し計32週研修します。

循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、外科、脳神経外科、救急科、小児科、産婦人科、精神科、糖尿病内分泌内科、腎臓内科、整形外科、形成外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科

### 5 研修スケジュール(例)

	1-4 週	5-8 週	9-12 週	13-16 週	17-20 週	21-24 週	25-28 週	29-32 週	33-36 週	37-40 週	41-44 週	45-48 週	49-52 週
1年次	内科					外科			救急		選択科		
2年次	救急 科	地域 医療	産婦 人科	小児 科	精神 科	選択科							

### 6 研修医の指導体制

月1回開催する臨床研修管理小委員会で臨床研修体制や研修医の研修状況などを情報共有・検討し、研修医にフィードバックする。

## 7 協力型臨床研修協力病院

協力施設	研修分野	研修期間	実施責任者	指導者
財団法人積善会曾我病院	精神科	3週	長谷川 剛	足立 嘉樹 長谷川 剛
国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	腎臓内科	4週	稲瀬 直彦	藤井 徹郎 西田 秀範

## 8 臨床研修協力施設

協力施設	研修分野	研修期間	実施責任者	指導者
独立行政法人国立病院機構箱根病院	地域医療	2日～	荻野 裕	小森 哲夫 荻野 裕 三原 正敏
真鶴町国民健康保険診療所	地域医療	1週～	川崎 英司	川崎 英司 矢ノ下絵里子
福井内科消化器科クリニック	地域医療	2日～	福井 慶太郎	福井 光治郎 福井 慶太郎
医療法人社団 富田医院	地域医療	2日～	富田 さつき	富田 さつき
小島クリニック	地域医療	2日～	小島 時昭	小島 時昭
横田小児科医院	地域医療	2日～	横田 俊一郎	横田 俊一郎 泰道 麗菜
片浦診療所	地域医療	1日～	福田 淳	福田 淳
医療法人藤誠会佐藤病院	地域医療	1日～	安野 憲一	安野 憲一
飛弾クリニック	地域医療	1日～	飛弾 康則	飛弾 康則
鴨宮さとう内科クリニック	地域医療	1日～	佐藤 光一郎	佐藤 光一郎
あおぞらクリニック	地域医療	1日～	中島 厚	中島 厚
加藤小児科医院	地域医療	1日～	加藤 正雄	加藤 正雄
善ファミリークリニック	地域医療	1日～	加藤 善史	加藤 善史
富士フィルム健康管理センター	地域医療	1日～	志和 忠志	志和 忠志
あすなろクリニック	地域医療	1日～	高橋 由利子	高橋 由利子
小田原保健福祉事務所	地域医療	2日	前井 伸一	河村 太一 青木 優一

## 研修医の処遇に関する事項

### 1 身分

会計年度任用職員

### 2 給与

1年目約563万円 2年目約687万円(賞与・諸手当込みの見込み額)

### 3 諸手当

当直手当(1年目10,000円/回 2年目15,000円/回)、時間外手当

### 4 勤務時間

8:30～17:15

### 5 当直回数

月平均4～5回

### 6 休日・休暇

土日祝日、年末年始、年次休暇(10日)、夏季休暇(5日)

### 7 宿舎

敷地内に建つ「メゾン白梅」を利用できます。6階建て(エレベータ有)、ワンルームマンション形式(バス・トイレ・ダイニングキッチン)、冷暖房完備。徒歩3分以内の範囲にスーパー、コンビニ等があります。

### 8 研修医室

1人1つずつ机を用意します。

### 9 社会保険

健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険

### 10 健康管理

健康診断(年2回)

### 11 アルバイト

初期臨床研修期間中のアルバイト等一切の兼業を禁止します。

## 12 その他

学会への参加旅費支給制度があります。

## 研修医の募集に関する事項

### 1 定員

8名

### 2 募集方法

公募(マッチングプログラムに基づく)

### 3 必要書類

採用試験申込書、大学卒業(見込)証明書、健康診断書、成績証明書

### 4 選考方法

書類審査、筆記試験(マルチチョイス)及び面接

## 研修の特徴

循環器内科は、内科の中でも急性冠症候群や不整脈、心不全など救急患者を診察する機会が多く、救急診療に欠かせない疾患群であります。救急科と連携を取りながら、初期診断から治療まで上級医師とともに患者の診療ができるようになります。また、循環器疾患だけでなく生活習慣病(高血圧症、脂質異常症、糖尿病など)の管理を一般医師として学んでいきます。並行して、日々の診療の中で心電図読影や心エコー図の習得に努力いたします。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・循環器内科は全身の心血管疾患が対象であり、総合的に患者の全身を診療するという医療の基本を習得する。
- ・致命的疾患を急性期から携わり救命していくという過程で、医師としての根本の姿勢を身につける。
- ・循環疾患特有の処置や検査を通じて、一般的診察から高度診療まで学んでいく。
- ・循環器診療は看護師や放射線技師、臨床工学技士など多職種との連携が不可欠であり、その連携やリーダーシップを育む。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・病歴聴取、身体所見から、適切な諸検査を計画し、指導医とともに症例ごとに治療方針の決定を行なっていく。
- ・診療過程の診療録を指導医の指導のもと、適切な記載ができる。
- ・積極的に心電図の読影や心エコー図の習得を行なえる。
- ・必要範囲内でカテーテル検査を行える。
- ・カンファレンスで、受け持ち患者のプレゼンテーションが行なえる。

### (2) 学習方法 LS

場所：病棟、外来、救急外来、心臓カテーテル室など

- ・見学・on the job training (診察、処置、カテーテル手技など)
- ・カンファレンス (CCU カンファレンス・カテーテル症例カンファレンス・心臓血管外科合同カンファレンス等)

- ・小講義

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

- ・診療録・プレゼンテーション
- ・EPOC・レポート

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	CCU 回診 病棟診察	CCU 回診 病棟診察 核医学検査	CCU 回診 カテーテル検査・治療	CCU 回診 病棟診察 核医学検査	CCU 回診 カテーテル検査・治療
午後	病棟診察 心臓血管外科合同カンファレンス	カテーテルアブレーション	ペースメーカー移植術 カテーテルアブレーション	カテーテル検査・治療	カテーテル検査・治療 カテーテルカンファレンス

## 研修の特徴

外来や病棟での実習を通じて、内科学および呼吸器内科学について研修する。

患者の立場に立った医療の提供、チーム医療を行う上での医師の役割、社会の中における医療の位置づけなどを学ぶことを目標とする。

一般内科学および呼吸器内科学の臨床を学び、代表的疾患を経験し基礎知識を習得するため、医療チームの一員として臨床に参加する。

病棟実習では、病歴や身体所見が取れ、診断に必要な知識や技術の基本を身につける。

病歴の聴取や指導医の説明により、患者や家族の立場を理解し、医療人として全人的に対応できるようにする。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

疾患のみならず患者全体を全人的に考慮した医療を学ぶ。呼吸器内科学を中心に内科医として必要な考え方、知識および技術を習得する。指導医の指導の下に、医療スタッフの一員として参加型の実習を行う。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・ 基本的診察技法（問診・身体診察）を習得する。
- ・ 診察・診療を、診療録に正しい医学用語で正確に記載する。
- ・ 鑑別診断を挙げ、診断に至るまでの考え方を学ぶ。
- ・ 簡潔で正確なプレゼンテーション法を学ぶ。
- ・ インフォームド・コンセントを含む、患者とのコミュニケーション法を学ぶ。
- ・ 胸部画像診断（胸部単純レントゲン写真や胸部 CT 検査など）を習得する。
- ・ 気管支内視鏡の見学や介助を通して、原理や検査結果の評価法を習得する。
- ・ 個人情報保護を理解し、実践する。
- ・ チーム医療を行う上での医師の役割を学ぶ。
- ・ 社会の中における医療の位置づけを学ぶ。

### (2) 学習方法 LS

場所：病棟・外来

- ・ 指導医の診察や処置の見学
- ・ 問診や診察の実践
- ・ 病棟カンファレンスへの参加

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

・診療録やプレゼンテーション

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟研修 外来研修	病棟研修 カンファレンス	病棟研修 外来研修	病棟研修 外来研修	病棟研修 外来研修
午後	カンファレンス 病棟実習	病棟実習	病棟研修	気管支内視鏡検査	病棟研修

## 研修の特徴

消化器内科では肝胆膵、消化管領域の疾患を対象としています。

消化器疾患には内科的治療で治療可能な疾患と観血的治療を必要とする疾患があります。また、各疾患も緊急治療が必要な急性期疾患から長期にわたる生活指導、薬物管理が必要な慢性期疾患まで多岐にわたっており、悪性腫瘍についても内視鏡治療等で治療可能な早期から化学療法・放射線療法を必要とする進行癌、緩和ケアの対象となる終末期まで様々な患者様がいます。

当科の研修では日常診療で遭遇する様々な腹部症状を訴える患者様に対する初期診療、鑑別診断から、観血的治療を含む様々な消化器診療について指導医と一緒に体験し、消化器診療のセンスを養って頂きたいと思っています。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・消化器疾患の初期診療、身体所見、病歴聴取、検査の進め方について学ぶ。
- ・それぞれの疾患の重症度や病期による治療法選択について指導医とともに検討する。
- ・消化器疾患重症患者の管理を指導医とともにこなす。
- ・終末期医療について患者本人・家族への対応等について各症例ごとに学ぶ。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・病歴、身体所見、検査データの記載を適切に出来るようになる。
- ・担当患者のプレゼンテーションを適切に行なうことが出来るようになる。
- ・観血的治療を行なう際の全身状態の管理、合併症の管理等が適切に出来るようになる。
- ・急変時対応を出来るようになる。
- ・超音波検査、内視鏡検査、CT、MRI等の画像検査について読影できるようになる。

### (2) 学習方法 LS

- ・病棟患者の診察、検査結果の評価、画像検査の読影を指導医とともにこなす。
- ・超音波検査、内視鏡検査、観血的治療等について指導医とともにこなす。
- ・症例ごとについて指導医とともにカンファレンスで討議する。

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

- ・診療録・プレゼンテーション
- ・EPOC・レポート

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟診察 上部内視鏡・腹部超音波検査	病棟診察 上部内視鏡検査、腹部超音波内視鏡検査	病棟診察 上部内視鏡検査、腹部音波検査	腹部超音波検査	上部内視鏡検査、腹部超音波検査
午後	下部内視鏡検査、ERCP、ESD等	下部内視鏡検査	下部内視鏡検査、ERCP、ESD、腹部血管造影検査等		下部内視鏡検査、ERCP等

## 研修の特徴

当科は日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本大腸肛門病学会の認定施設であり、消化器全般、乳腺、鼠径ヘルニアなどの幅広い疾患に対応できるように体制を整えています。また、西湘地区の地域がん診療連携拠点病院に認定されています。

外科系志望に関わらず、臨床医として必要な補液・薬剤投与・栄養管理や画像診断、解剖、基本手技および急変時対応などを経験できます。

診療はチームとして行っており、科の雰囲気も明るく、情熱と使命感をもって診療しています。また、積極的に学会活動にも参加しています。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・医師および社会人として必要なプロフェッショナリズムを理解し、医療スタッフの一員として全人的に患者さんを診られるようになる。
- ・手術前、周術期、手術後を通して、診療能力（知識、技能、態度）を身につける。
- ・ミーティングやカンファレンスにおいて症例プレゼンテーション能力を身につける。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・患者さんの全身および局所を診察し問題点を抽出し、診療録を適切かつ迅速に記載しプレゼンテーションができる。
- ・術式に応じた周術期管理が理解できる。
- ・周術期の合併症について理解し、診断と治療計画を立案できる。
- ・外科基本手技（結紮、縫合、小手術、中心静脈ライン留置など）や検査を指導医の下で実践できる。
- ・研究会、学会への参加・発表を通して、学術的な考え方と方法が実践できる。

### (2) 学習方法 LS

場所：病棟および手術室、各検査処置室（エコー室、内視鏡室、レントゲンテレビ室）

- ・講義
- ・見学、on the job training（診察、処置）
- ・カンファレンス
- ・学会参加、発表

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医、上級医が日常の診察および面談を通し、学習・研修の到達度を  
確認し評価を行い、フィードバックする。

- ・プレゼンテーション
- ・EPOC、レポート

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	抄読会 病棟診察 手術	病棟診察 注腸	病棟診察 手術	病棟診察 腹部血管造影 (検査、治療) 胃カメラ	病棟診察 手術
午後	手術	乳腺エコー 手術症例検討会 消化器内科合同 カンファレンス	手術	乳腺エコー 胃瘻造設 大腸カメラ	手術

## 研修の特徴

小田原市立病院脳神経外科は神奈川県西地区の中核基幹施設として脳血管障害・脳腫瘍・神経外傷などを総合的に診療している。

診療科チームとして、全患者を担当することで幅広い臨床経験を習得できるように心がけている。

また 3 次救急医療センターとして、救急医を連携して救急処置等にも経験が積めるような研修プログラムである。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・診療科チームの一員として、主として入院患者の方針決定、各種精査、手術当につき、入院中の管理を主治医とともに参加する。また救急疾患に関しては、救急外来から上級医とともに診療に携わることで、疾患の鑑別、緊急性の有無の判断を含め、総合的な臨床能力を養う。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・神経学的理学所見の評価および鑑別診断と緊急度判断を養う。
- ・各種画像の読影能力を培い、適切な指針決定能力を養う。
- ・研修医としての習得すべき各種手技を習得する。
- ・手術に積極的に参加し、上級医の管理・指導のもと積極的に手術手技を習得する。

### (2) 学習方法 LS

- ・毎日のカンファレンスでの病棟患者の振り返り
- ・リハビリテーションカンファレンス・地域連携室合同カンファレンス（週 1 回）
- ・英文論文抄読会（月 1 回）

### (3) 評価方法 EV

- ・診療録・プレゼンテーション
- ・各種口頭試問

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務 外来診察	病棟業務	病棟業務	手術	病棟業務 外来診察
午後	脳血管撮影	手術	病棟業務	手術 手術カンファレ ンス	リハビリカンフ ァレンス

- ・ 研修医は、脳神経外科スタッフとともに診療科チームの一員として配属される。
- ・ 指導医数 3 名（脳神経外科専門医 3 名、うち脳神経外科指導医 1 名、脳卒中学会指導医 1 名、脳卒中の外科技術指導医 1 名、脳血管内治療専門医 1 名、神経内視鏡技術認定医 1 名）

## 研修の特徴

救急科では、救急車で搬送される患者を主体として、様々な内科疾患や外傷などの外因性疾患の初期対応を行います。

他の診療科で対応困難な疾患の入院治療・全身管理も行っています。

様々な疾患の初期対応を研修しながら、病歴聴取や身体診察、検査・診断を行い、治療方針を考える能力を養う指導を行っています。

救急科初期臨床研修は、1年次2ヶ月、2年次1ヶ月を基本としていますが、選択でさらなる研修をすることも可能です。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・救急外来患者の身体所見を把握し、重症度・緊急度を判断することができる。
- ・緊急を要する症状や病態に対する初期診療を行い、必要な検査を指示し、緊急度の高い異常検査所見を指摘できる。
- ・病歴・身体診察・検査結果から得られた情報を整理し、状況に応じたプレゼンテーションや他科へのコンサルテーションを適切に行うことができる。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・バイタルサインや身体所見を的確に迅速に把握することができる。
- ・緊急を要する症状や病態に対して、必要な検査（検体、画像、生理検査）が指示できる。
- ・身体診察、検査結果から得られた情報を整理し、状況に応じたプレゼンテーションを行うことができる。
- ・救急隊員や他部門の医療スタッフとコミュニケーションをとり、チーム医療を実践できる。
- ・受け持ち患者に関する身体所見・検査結果から、問題となる病態についてカンファレンスでプレゼンテーションできる。

### (2) 学習方法 LS

場所：病棟・救急外来

- ・講義：クルズス
- ・on the job training(救急外来診察・処置、病棟診察・処置)

- ・カンファレンス（病棟カンファレンス、症例検討会など）

### （3）評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

- ・診療録・プレゼンテーション
- ・EPOC・レポート

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診				
	救急外来診療 病棟管理	救急外来診療 病棟管理	救急外来診療 病棟管理	救急外来診療 病棟管理	救急外来診療 病棟管理
午後	救急外来診療 病棟管理	救急外来診療 病棟管理	救急外来診療 病棟管理	救急外来診療 病棟管理	救急外来診療 病棟管理
	病棟カンファレンス・症例検討会				

## 研修の特徴

県西地域唯一の小児の入院治療可能な施設として多くの小児患者を受け入れております。小児内科疾患を、乳児、幼児、学童期の広い範囲で対応しており、診察、検査から診断、治療につながるようにしています。また、採血や血管確保といった手技、輸液や薬剤の適切な投与方法を習得します。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・正常新生児の診察を行い、正常、異常の判断ができるようにします。
- ・小児の特性を考慮した診察、検査、処置、治療法を習得します。
- ・小児救急患者の対応もスタッフと一緒にいきます。
- ・本人のみならず保護者とのコミュニケーションをとりながら診療できる様にします。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・患者の全身を診察できるようにする。
- ・カルテに必要、十分な事項を記載できるようになる。
- ・受け持ち患者のプレゼンテーションを簡潔に行うことができる。
- ・年齢に応じた検査結果の解釈ができるようになる。
- ・基本的な手技（採血、血管確保、超音波検査等）ができるようになる。

### (2) 学習方法 LS

場所：病棟、外来、研究会

- ・上級医と一緒に診療、処置を行い方法、手技を習得する。
- ・院内での予防接種、乳児検診だけでなく、小田原市が行っている乳児健診にも参加する。
- ・小児関連の研究会にも積極的に参加する。

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

- ・プレゼンテーション、カルテ記載、症例検討

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	カンファレンス 病棟診察、処置 新生児回診	カンファレンス 病棟診察、処置 新生児回診	カンファレンス 症例検討、病棟 診察、処置 新生児回診	カンファレンス 病棟診察、処置 新生児回診	カンファレンス 病棟診察、処置 新生児回診
午後	予防接種 乳児健診 病棟診察、回診 抄読会	病棟診察、回診	病棟診察、回診	病棟診察、回診	病棟診察、回診

午後に不定期に小田原市保健センターで乳児健診（4ヶ月、1才6ヶ月、3才）

## 研修の特徴

産婦人科学は、周産期、腫瘍、生殖内分泌、女性のヘルスケアを主とした4つの領域からなる診療科である。当院の特徴としては、産科も婦人科も救急診療を行っており、各分野の専門医が在籍していることです。チームの一員となり以下の様な分野の研修を行う。

- ①女性特有の疾患による救急医療を研修する。的確な鑑別と初期診療の研修。
- ②女性特有のプライマリ・ケアを研修する。

女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解し、それらの失調に起因する疾患について系統的診断と治療を研修。

- ③周産期医療に必要な基本的知識を研修する。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・産婦人科は女性を対象とした診療科であり、診療スタッフの一員として、患者との良いコミュニケーションを保ち、患者を診るという医療の基本を習得する。
- ・産婦人科診療に特有な診断や処置を習得し、診断能力を習得する。
- ・検査結果を評価して、患者・家族にわかりやすく説明することができる。
- ・妊産婦に対する投薬の問題、制限当について学ぶ。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・患者の全身所見と産婦人科所見を診察し、診療録が適切に記載できる。
- ・入院受け持ち患者の基本液な手技（静脈注射、内診、超音波検査等）を指導医のもとで行うことができる。
- ・受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、治療方針を検討する事が出来る。
- ・受け持ち患者の手術に助手として立ち会う。
- ・指導医とともに当直し、分娩症例を担当する。
- ・妊娠、分娩、産褥並びに新生児の生理の理解
- ・妊娠の検査、診断
- ・正常妊婦の外来管理、正常分娩の管理、正常産褥の管理、正常新生児の管理
- ・流産、早産の管理
- ・骨盤内の解剖、視床下部、下垂体、卵巣系の内分泌調節の理解
- ・婦人科良性腫瘍の診断並びに治療計画の立案
- ・婦人科悪性腫瘍の早期診断法の理解(見学)
- ・婦人科悪性腫瘍の集学的治療の理解(見学)

- ・不妊症、内分泌疾患患者の外来における検査と治療計画の立案
- ・婦人科性器感染症の検査、診断、治療計画の立案

## (2) 学習方法 LS

場所：病棟・外来・手術室

- ・講義
- ・見学・on the job training (診察・処置・手術)
- ・カンファレンス (病棟カンファレンス・外来カンファレンス)

## (3) 評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

- ・診療録・プレゼンテーション
- ・口頭試験・観察記録
- ・EPOC・レポート

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟診察 手術	外来カンファ 病棟診察 手術	病棟診察 手術	病棟診察 手術	病棟診察 手術
午後	病棟診察 手術	病棟診察 手術	病棟診察 手術	病棟診察 手術	病棟診察 手術 病棟カンファ

## 研修の特徴

- ・ 認知症の中核症状、BPSD、せん妄を把握し、診断、治療を行うことができる。
- ・ がん患者およびその家族の精神疾患（神経症圏、ストレス関連障害、身体表現性障害、気分障害、せん妄等）を把握し、適切なケアを行うことができる。
- ・ 患者、家族に対し、基本的な精神療法を行うことができる。
- ・ 患者の心理社会的側面に関心に向け、配慮をすることができる。

## 研修の内容

### （1）研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・ 精神科特異的診察能力（知識、技術、態度）の習得。
- ・ コンサルテーション-リエゾン精神医学的アプローチの習得。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・ 外来新患、他科併診患者（外来、病棟）の病歴聴取を行い、指導医とともに診察、治療を行う。
- ・ 担当患者のプレゼンテーションを行うことができる。
- ・ 緩和ケアチーム、認知症ケアチームに参加し、多科からの依頼患者の診断・治療・ケアと併行し、患者-家族-医療者間の関係調整に協力する。

### （2）学習方法 LS

場所：心身医療科外来

- ・ カンファレンス
- ・ 症例検討

### （3）評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

- ・ 診療録
- ・ プレゼンテーション

## 研修スケジュール

---

	月	火	水	木	金
午前	外来 新患	外来 新患	緩和ケアチーム カンファレンス	外来 新患	外来 新患
午後	リエゾン	リエゾン	認知症チーム	リエゾン	リエゾン

## 研修の特徴

内分泌代謝疾患に関する基礎的な知見を経験できるように、当科スタッフ主治医の患者様には担当医として治療にあたっていただきます。科の性質上、糖尿病教育入院が主体となりますが、高血糖緊急疾患である糖尿病ケトアシドーシス DKA や高血糖高浸透圧症候群 HHS や低血糖発作といった急性期疾患の治療に当たる機会も少なくないと思います。将来いかなる診療科を専門に選んでも、糖尿病患者や(それこそ当直等に従事すれば)急性期・高血糖緊急症である DKA、HHS や低血糖発作に直面する可能性は十分あり、当科の研修で病態や治療を学ぶことは有益と考えています。内分泌疾患についても特殊な疾患と考えがちですが、バセドウ病、橋本病等の甲状腺疾患の患者数は意外に多く、高血圧症の病態において二次性高血圧症は必ず鑑別疾患として留意しておく必要があり、身近な病態・疾患であるといえます。

患者様は病名がついた状態で我々の目の前に現れるわけではありません。内分泌疾患についても、患者は最初から当科を受診することはむしろまれで、内科・外科、メジャー・マイナー問わず患者様は症状を抱えて(しかも非特異的な症状を訴えて)、様々な診療科を受診されるケースが多いのです。ですから将来の進路を問わず、一般内科の視点で『総合的に病態を捉えていく姿勢』は十分にトレーニングしていく必要があり、当科の研修においてもその視点も十分に踏まえた研鑽が行えるようにしています。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・糖尿病、脂質異常症、高血圧、およびそれらの合併症の評価と管理、日常診療で見逃されがちな種々の内分泌疾患の治療を中心として、内科医としての基本的な技術を習得する。
- ・総合的な病態把握をする思考パターンを醸成すべく、Problem Oriented Systemに従って、病歴、身体所見、検査データ、そして社会的背景等から問題点を挙げ、系統立てて鑑別診断を挙げ、最終的に確定診断・治療へ繋げていくという、内科診療の基本を確立すること。
- ・コメディカルとの連携、糖尿病合併症に関して他科との連携等、チーム医療の実践を経験すること。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・入院患者の担当医として上級医と共に診療にあたる。回診やカンファランスでの議論を通じて診察、検査、治療の方針を決定できること。

- ・高血糖緊急症や低血糖発作など救急症例に対して上級医と協同で診察・診断・治療ができること。
- ・症例について理解を深める訓練を行ない、可能であれば学会発表や論文発表ができるようになること。

## (2) 学習方法 LS

場所：病棟・外来

- ・on the job training (診察、処置)
- ・カンファレンス (病棟カンファレンス等)
- ・クルグス (上級医からのミニ講義等)

## (3) 評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

- ・診療録・プレゼンテーション
- ・EPOC・レポート

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察
午後	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察 カンファレンス	病棟診察

## 研修の特徴

当院腎臓内科での研修の特徴は、臨床症例の豊富さにあります。当院は西相模地域唯一の腎臓内科であり、腎臓疾患のほぼすべての症例を見ることが可能です。但し腎生検ができないため、必要な場合は東海大学病院に依頼することとしています。

また、人工透析に関しては、導入・シャント作成・維持、シャントトラブル等の合併症に関してもすべて当科にて対応します。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・内科領域の疾患一般に関して基礎的な知識・思考方法・診察技術を身につける。
- ・病院における他の診療部門（co-medical）との連携・関係構築方法を学ぶ。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・基本的な腎疾患（CKD／ネフローゼ症候群／CGN／AKI）に関する診断ができる。
- ・CKD の概念を理解し、基本的な管理方法を身につける。
- ・透析患者の一般的管理、また処方の方を理解する。

### (2) 学習方法 LS

場所：病棟 手術室 血管造影室 透析室

- ・診察 処置 シャントPTA シャント造設 カテーテル挿入
- ・カンファレンス

### (3) 評価方法 EV

日常業務の状況、カルテ内容等にて総合的に評価する

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟／透析室	病棟／透析室	病棟／透析室	病棟／透析室	透析室／手術
午後	病棟	病棟	病棟	血管造影室	手術 カンファレンス

## 研修の特徴

当院整形外科は神奈川県内公立病院の中でもトップレベルの症例数を誇る診療科です。即戦力となるような実践的な研修となります。習熟度により簡単な手術経験も可能です。様々な併存症を持つ高齢者の入院管理を行うことにより、運動器疾患だけでなく総合診療力も高めることができます。研修を経験した卒業生からは「忙しかったけど充実した経験が得られた」と評価をうけています。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・救急医療 四肢・脊椎の高度外傷に対応できる基礎的診療能力を習得する。
- ・慢性疾患 有訴率の高い慢性運動器疾患の理解を深める。
- ・基本手技 運動器疾患診療に必要な手術・検査・処置の基本手技を習得する。
- ・医療記録 適正な診療記録の記載方法を習得する。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・縫合等1次救急処置ができる。
- ・骨折・脱臼整復や創外固定といった2次救急処置を指導医のもと体験する。
- ・頸髄損傷や骨盤骨折といった3次救急疾患の対応方法を理解する。
- ・運動器疾患の画像等、診断・治療に必要な検査の指示および読影ができる。
- ・指導医のもと基本的な外科処置を習得する。
- ・患者、医師、メディカルスタッフと適切なコミュニケーションがとれる。

### (2) 学習方法 LS

場所：病棟、外来、手術室、医局

- ・OJT
- ・ケーススタディー
- ・カンファランス
- ・院内・外講演会の参加

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

- ・日常診療態度
- ・ケースプレゼンテーション

- ・ EPOC、レポート
- ・ 院内・外学会発表

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	術後カンファ 病棟・手術	外来カンファ 病棟・手術	術前カンファ 病棟・手術	病棟カンファ 病棟・手術	リハカンファ 病棟・手術
午後	病棟・手術	病棟・手術	病棟・手術	病棟・手術	病棟・手術

## 研修の特徴

形成外科で行っている軟部損傷の治療法を身につける。(創傷処置、縫合法など)

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・患者さん、コメディカルスタッフ、他科の医師から信頼される医師を目指す。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・外傷や術後の局所管理を学ぶ。
- ・局所麻酔、皮膚切開、縫合技術を学ぶ。

### (2) 学習方法 LS

場所：病棟・形成外来

- ・医療面接を行い、身体所見、検査所見とともに診療録の作成を行う。
- ・病棟の患者の担当医となり病棟業務に従事する。
- ・問題志向型システム（POS）に従い、診療計画を立て毎日診察にあたる。
- ・入院受け持ち患者の基本的な検査、手技を指導医のもとで行う。
- ・受け持ち患者に対して治療計画、検査結果等の説明を指導医のもとで行う。
- ・受け持ち患者の退院後は入院サマリーを作成する。

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	手術	外来	手術	外来	外来
午後			外来		

## 研修の特徴

呼吸器外科領域の疾患においてゆっくり治療計画を立案する症例から、瞬時に判断を要する症例までを幅広く経験できる。

外科志望の有無に関わらず、総合的な治療指針の立案や基本的な外科手技を学ぶことができる。

他科やコメディカルとの連携を含め、集学的治療を行う最善の環境を整えることを大事としている。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・外科的プライマリ・ケア能力のある後期研修医として専門研修を開始できるようにチーム医療について学ぶ。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・術前患者の治療計画の立案、プレゼンテーションを学ぶ。
- ・内視鏡手術(胸腔鏡下手術)の基本手技を学ぶ。
- ・周術期における胸腔ドレーン、人工呼吸器、輸液管理を学ぶ。
- ・外来診療を体験する。

### (2) 学習方法 LS

場所：病棟、手術室、外来診療

- ・患者の身体所見の観察や周術期管理を指導する。
- ・緊急処置の指導をする。
- ・手術基本手技の指導をする。
- ・適宜外来診療を行う。

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医

- ・定期的な面談を通して学習および到達度を確認する。
- ・自己および指導医評価はEPOCで行う。

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	朝回診 勉強会	朝回診 手術見学	朝回診 病棟業務	朝回診 病棟業務	朝回診 外来診療
午後	内科外科カンファレンス 呼吸器ケアラウンド 夕回診	夕回診 外来診療	夕回診 病棟業務	夕回診 外来診療	夕回診 病棟業務

## 研修の特徴

心臓血管外科に特徴的な疾患について学ぶ。単に手技を学ぶのみではなく手術に至る適応の判断から術後管理まで全体像を見渡せる知識を習得する。

手術はチーム医療が非常に重要である。心臓血管外科のチームの一員としての自覚を持ってもらう。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・主に外科手技が必要となる心臓 血管の疾患に対する理解を深める。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・皮膚切開 皮膚縫合等 外科基本手技の習得。
- ・心臓手術後に特徴的な術後管理の習得。
- ・診断～手術適応判断～手術までの経過の理解を深める。

### (2) 学習方法 LS

- ・手術への参加。
- ・術前カンファレンスへの参加により疾患や手術適応等について学習。
- ・時間の可能な範囲で実地での CCU 術後管理実践。
- ・皮膚縫合等のドライラボ。

### (3) 評価方法 EV

- ・上級医により、手技・疾患への理解・プレゼンテーションの内容等の評価を行う。

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来、術後回診 (手術院外研修)	手術	外来 術後回診	術後回診 (手術院外研修)	外来 術後回診
午後	(手術) 循環器内科合同カ ンファレンス参加	手術 CCU 管理	CCU 管理	(手術)	CCU 管理 手術カンファレン ス参加

## 研修の特徴

皮膚は特殊な器械を使わなくても観察できるため、皮膚科外来には、重症ではなくても、様々な皮膚症状をもつ患者が来院する。内臓疾患に関連する皮膚症状や皮膚悪性腫瘍などに関する知識に加え、中～軽症の皮膚疾患につき広く理解し、患者さんの皮膚症状に対する不安を除去することも重要である。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・ 様々な皮膚症状の診療に必要な知識、技術を認識する。
- ・ 他科の医師と皮膚科医との違いを認識する。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・ 患者に問診を行ない、現病歴、皮膚所見などを適切に診療録に記載する。
- ・ アトピー性皮膚炎や足白癬などの、よくある皮膚疾患についての知識を深める。
- ・ ステロイド外用剤、抗真菌薬などの頻用外用剤についての知識を深める。
- ・ 軟膏処置、創傷処置、皮膚縫合などの外科処置を体験する。

### (2) 学習方法 LS

場所：外来・病棟

- ・ 皮膚科外来診療を見学し、時には診療の介助を行なう。
- ・ 疑問点は適宜上級医に質問する。

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

- ・ 診療録
- ・ EPOC
- ・ レポート

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来診療	外来診療 病棟診療	外来診療 病棟診療	外来診療 病棟診療	外来診療 病棟診療
午後	中央手術	外来診療 病棟診療	外来診療 病棟診療	外来診療 病棟診療	外来診療 病棟診療

## 研修の特徴

泌尿器科医師としての基本的な知識・ベッドサイド手技・手術手技の習得を目指す。  
開腹手術、経尿道的内視鏡的手術、腹腔鏡手術への参加。  
悪性腫瘍に対する抗癌剤の使用、分子標的治療薬の使用が経験できる。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・外来診療の見学は随時可能。泌尿器科疾患の特徴を理解する。
- ・泌尿器科グループの一員として、病棟診療と治療に参加する。
- ・手術に参加する。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・チーム医療のあり方を理解し、自身の行動を決定する。
- ・前立腺針生検を自力で行える。
- ・手術に参加し、手術手技の向上を図る。
- ・膀胱内留置カテーテル、腎瘻カテーテルの合理的管理が出来る。
- ・泌尿器科領域の抗癌剤、分子標的治療薬の選択と投与を習熟する。

### (2) 学習方法 LS

場所：泌尿器科外来、病棟、手術室

- ・方法：上級医と共に行動

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

- ・診療録、討議による評価
- ・EPOC オンライン臨床研修評価システムで総合評価

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟処置 外来見学	病棟処置 外来見学	病棟処置 手術	病棟処置 外来見学	病棟処置 外来見学
午後	病棟処置 カンファレンス	病棟処置 放科の検査と処 置	手術	病棟処置 放科の検査と処 置	手術

## 研修の特徴

眼科の診察について知識と技術を理解できるようにする。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・眼科の一般診療、特に緊急性がある病気を診察できるようにする。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・外来で実際診察を行う。

### (2) 学習方法 LS

場所：

- ・見学、診察、処置

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

- ・診察記録、プレゼンテーション

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	オペ	外来
午後	検査	オペ	検査	オペ	検査

## 研修の特徴

耳鼻咽喉科の診療及び喉頭ファイバースコープなどの簡単な処置、手技ができるようになる。また、手術にも積極的に参加できる。

耳鼻咽喉科特異的な疾患のみでなく感冒、めまいなどの一般的な外来で遭遇しうる疾患について理解を深めることができる。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・耳鼻咽喉科疾患について理解を深めること
- ・めまいなどの一般的な外来診療の理解を深める

#### ② 行動目標 SBOs

- ・喉頭ファイバー等の基本的診察手技を習得する
- ・縫合などの外科的基本手技の習得
- ・外来での基本的な問診、外来管理を習得する

### (2) 学習方法 LS

場所：病棟・外来・手術室

- ・見学・on the job training（診察、処置、手術）
- ・カンファレンス（初診カンファレンス・症例検討会等）

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

- ・診療録・プレゼンテーション
- ・EPOC

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟、外来	病棟 外来 or 手術	病棟 外来 or 手術	病棟 外来 or 手術	病棟 外来 or 手術
午後	外来	手術 or 補聴器外来	外来 or 手術	外来 or 手術	外来、術前カン ファレンス

## 研修の特徴

急性期病院としての特徴を生かし、各科からの多様な疾患の急性期からのリハビリテーション治療の適応、内容を研修できる。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・急性期病院におけるリハビリテーション医療の重要性、意義、役割を理解する。
- ・リハビリテーション科にかかわる主疾患を理解する。
- ・リハビリテーション医療の適応を理解する。
- ・各患者の障害像の把握、および大まかなゴール設定ができる。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・患者の筋力、基本動作、歩容を診察できる。
- ・患者のADL能力、社会背景を把握することができる。
- ・診察結果をもとにリハビリ処方および適切なゴール設定ができる。
- ・リハビリテーションチームスタッフと適切なコミュニケーションがとれる。

### (2) 学習方法 LS

場所：外来診察室、病棟、リハビリテーション訓練室

- ・新患のリハビリテーション診察を行い、理学所見の取り方を取得する。
- ・得られた所見から、障害評価を行い、リハビリ内容について指導医から指導を受ける。
- ・適切なリハビリテーション処方と達成目標が提示できるよう、症例数を経験する。
- ・リハビリ訓練内容を見学し、リハビリスタッフと訓練について情報交換を行う。

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医

- ・EPOC オンライン卒後臨床研修評価システムを用いて総合評価する。

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来/病棟往診	外来/病棟往診 筋電図検査	外来/病棟往診	外来/病棟往診	外来/病棟往診
午後	筋電図検査	嚥下造影検査	装具外来/筋電 図検査	小児リハ外来	車いす、座位保 持装置外来 カンファレンス

## 研修の特徴

放射線科では、画像診断や放射線治療の研修が可能です。

画像診断分野においては、CT、MRI、核医学検査などの読影を学習するとともに、造影検査におけるライン確保の手技や、副作用発生時の対応などを習得します。研修医は専用の読影端末を使用して、読影報告書を作成し、指導医が、個々の症例に丁寧な説明、解説を行います。

放射線治療分野においては、指導医とともに、治療計画の実際を体験します。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・各種画像診断の基本的知識を習得する。
- ・放射線治療に関する適切な検討ができるようにする。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・CT、MRI、単純撮影の正常解剖を理解し、基本的な疾患の読影ができる。
- ・造影剤の投与と副作用に対する処置ができる。
- ・放射線治療の一般的な流れと方法が説明できる。

### (2) 学習方法 LS

場所：読影室、CT室、RI室、放射線治療診察室など

- ・読影
- ・報告書に内容の確認
- ・治療患者の治療計画の見学 など

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医

- ・診断報告書
- ・勤務態度
- ・EPOC への指導医の入力

## 研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	PET 室				
	CT 室	CT 室	CT 室	CT 室	読影室
午後	CT 室	CT 室	CT 室	CT 室	治療
	読影室	読影室	読影室	読影室	

## 研修の特徴

麻酔を構成する要素は鎮痛・鎮静・不動化・有害神経反射の防止の4つです。このことをふまえて手術室内でどのように全身管理を行うかを研修します。

また、医師として必ず身につけるべき気道確保の手技を修得します。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・麻酔管理を通じて呼吸、循環、輸液などの全身管理の基礎知識ならびに基礎技術を身につける。
- ・疼痛管理の基礎知識を修得する。
- ・周術期における多職種連携を経験する。
- ・麻酔で使用する薬剤の作用および副作用を理解する。

#### ② 行動目標 SBOs

- ・下顎挙上による気道確保ができる。
- ・マスクによる用手換気ができる。
- ・気管挿管ができる。
- ・生体監視モニターから情報を読み取ることができる。
- ・安全に抜管することができる。
- ・呼吸器の設定ができる。

### (2) 学習方法 LS

場所：手術室、病棟

- ・1日あたり1から2症例の手術患者を担当し、上級医の指導のもと術前診察を行う。
- ・麻酔のリスクを評価し予測される麻酔合併症を想定して麻酔計画を立案する。
- ・術前訪問をした看護師と患者情報を共有し麻酔計画に反映させる。
- ・術後診察を行い実施した麻酔の評価をする。

### (3) 評価方法 EV

評価者：指導医・上級医

- ・各指導医が評価しその意見を研修責任者が総括して評価する。

## 研修スケジュール

---

	月	火	水	木	金
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室

## 研修の特徴

病理解剖、生検・手術材料の病理診断、細胞診断業務を病理診断科の技師との連携を図りながら行い、疾患の基本的な病理学的所見を学ぶことができる。

## 研修の内容

### (1) 研修目標

#### ① 一般目標 GIO

- ・病理診断の臨床医学における役割、意義、重要性を理解する。
- ・生検・手術材料、細胞診材料の取扱い、標本作製、診断過程を理解し、光学顕微鏡を用いた病理診断学を修得する。
- ・病理解剖では臨床経過を十分に把握し、病態と肉眼・組織所見との関連性を理解する。

#### ② 行動目標 SBOs

##### (1) 組織診・細胞診

- ・適切な組織・細胞固定法と基本的な染色法を理解している。
- ・基本的な肉眼所見を理解した上で、適切な切出しが行える。
- ・基本的な組織学的所見、細胞診断所見を理解できる。
- ・病理解剖における肉眼・組織所見を把握し、剖検診断報告書を作成できる。

##### (2) チーム医療

- ・臨床医との適切な情報交換ができる。
- ・病理検査室の技師と協調して仕事ができる。

### (2) 学習方法 LS

1. 生検・手術材料、細胞診材料の処理(固定)方法を指導医や検査技師から学ぶ。
2. 組織・細胞診標本の作製過程(基本的染色方法を含む)を検査技師から学ぶ。
3. 手術材料の肉眼写真撮影と切り出しを行う。
4. 生検・手術材料の診断報告書の作成を行う。
5. 術中迅速診断検体の薄切・染色過程を検査技師から従い学び、その診断の要点を指導医から説明を受ける。
6. 細胞診断に関しては細胞検査士から診断の基礎を学ぶ。
7. 主な特殊染色と免疫染色について検査技師から学び、疫染色を実際に行う。
8. 病理解剖では指導医の介助を行いながら、剖検所見の指導を受け、剖検報告書を作成し、CPCに参加する。

### (3) 評価方法 EV

EPOC オンライン卒後臨床研修評価システムを用いて総合評価する。

## 研修スケジュール

---

9 : 00 - 12 : 00	手術症例の肉眼観察・写真撮影・切り出し 迅速診断の立ち会い 病理解剖の立ち会い
13 : 30 - 17 : 00	組織標本の鏡検と診断報告書作成 指導医とのディスカッションと診断報告書の検閲 迅速診断の立ち会い 病理解剖の立ち会い 検査技師とのカンファランス（毎週1回）
17 : 30 - 18 : 00	臨床医とのカンファランス（毎月1~2回）

地域医療支援病院/救命救急センター/地域がん診療連携拠点病院



**小田原市立病院**

Odawara Municipal Hospital

〈問い合わせ先〉

経営管理課 初期研修医担当

〒250-8558 神奈川県小田原市久野 46 番地

TEL : 0465-34-3175 (内線 3606) FAX : 0465-34-3179

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/hospital/>